

令和4年度北杜市総合計画推進委員会議事録

①会議名：北杜市総合計画推進委員会

②開催日時：令和5年1月31日（火）14：00～16：00

③開催場所：北杜市役所 北館3階 大会議室

④出席者：【委員長】藤原 真史

【副委員長】吉田 百加利

【委員】安達 義通 井上 能孝 北原 正倫 小池 雅美 深澤 文長

【市役所】市長 副市長 教育長 北杜未来部長 企画部長 総務部長

市民環境部長 こども政策部長 産業観光部長 建設部長

教育部長 議会事務局長 農業委員会事務局長 上下水道局長

須玉総合支所長 高根総合支所長 長坂総合支所長

大泉総合支所長 秘書広報課長 政策推進課長

財政課長 総務課長

【庶務担当】企画課計画担当

⑤欠席委員：0名

⑥次第：【委嘱状交付式】1) 開会

2) 委嘱状交付及び委員紹介

3) 市長あいさつ

4) 閉会

【第1回推進委員会】1) 開会

2) 市長あいさつ

3) 委員長・副委員長選任

4) 審議

①第3次北杜市総合計画基本目標、施策目標の
目標値設定について

②第3次北杜市総合計画進捗状況について

③その他

5) 閉会

⑦公開・非公開の別：公開

⑧傍聴人：7名

⑨審議内容

【第1回推進委員会】

●委員長・副委員長選任

委員長に藤原 真史委員、副委員長に吉田 百加利委員が選任された。

●審議①第3次北杜市総合計画基本目標、施策目標の目標値設定について

事務局：第3次北杜市総合計画基本目標、施策目標の目標値設定について説明。

委員：目標値の設定について、「調査結果が50%以上の場合、R7に基準値の1.1倍（50%未満の場合、基準年の1.2倍）の増加を目指す」とあるが、この設定自体は決定事項か。

事務局：昨年度に総合計画を策定するにあたり了解をいただき設定をしている。

委員：全ての指標の目標値を一律に1.1倍、1.2倍とするのは無理があるのではないか。指標や施策の内容に鑑みて目標値を設定した方が良いのではないか。

委員長：子育てのように受益者が限定されるものについては、対象を絞った数値を使ったサブの指標の設定や、「わからない」の回答が多いものは「わからない」を減らしていけるようなサブの指標の設定、数値が低い早期に改善を図る必要があるようなものは目標値を高く設定するなど、目標値を一律ではなくメリハリをつけるとよいのではないか。

事務局：指標の設定については策定時に委員に確認、承認をいただいているので、あくまで目標値の設定としてはこの数字を使いたい。その上で、高い目標値等が別途必要なものについては、事業、施策を展開する中で担当課等で改めて設定し、その目標値をバックキャストिंगの手法で運用していきたい。

委員：目標値は令和7年のものだが、既に達成している項目もあり、見直さざるを得ないと思う。見直しのタイミングを明確にし、次の目標設定を行ってほしい。

企画部長：再度目標値を精査し、担当部局と協議を行いながら検討していきたい。

委員長：目標の設定方法について総合計画策定時に説明はされているが、その考えによる数値を上回るものでメリハリを持って再設定する分にはかまわないと思う。適宜見直しを行い、この推進委員会の中で確認、議論をしていければよいと思う。

委員：令和4年度の市民意識調査の結果を基準値としている指標について、意識調査の項目を変更したり、結果以外の基準値を設けたりすることは可能か。

事務局：指標の項目については策定時に決定をしており、基準値の設定についても市民意識調査の結果を用いることで決定しているため、これを決定事項としたい。

委員：令和5年の結果を見ないと、この指標設定の良し悪しは正直判断できない。全体からの基準値だけでなく、受益者に限定した数値を挙げていることは良いと思う。今は参考値で目標値が入っていないが、これにも目標値を入れたもので変更は可能か。

事務局：目標値をどちらかに変更するという事は可能だと考えている。受益者に限定した数値にも目標値に入れることについては、調査をする際に受益者の人数を作為的に抽出しておらず、正確な比較ができないことから、目標値は設定せずあくまで参考値のみとしている。

委員：指標としている市民意識調査の問いをもっと具体的にしないと、数値としてなかなか結果に表れづらいのではないかと。計画を推進していく中で、それが数値に反映されて目標値に向かって上がっていくのか不安がある。この事業が数字に結びつきそうというような目論見や、数字が伸び悩んだ場合の対策などはあるか。

事務局：この事業がこの指標の数字に直結するといったはっきりとした因果関係は持っていない。そのためリーディングプロジェクトを設定し、全体的な目標の達成のために様々な施策を展開しており、個別事業と数値を直接的に結びつけてはいない。

委員：今後市民意識調査を行うにあたり、現状の進捗状況を記載しておくことで、それを参考にして回答し易くなるのではないかと。何に取り組んでいるのか、何がどれだけ進んでいるのかを知ってもらった上で、確かによくなっている、取り組んではいるようだが実感はないなど、市の施策と意識調査がリンクして判断してもらえと思う。

企画部長：市民の方に市の施策の様子が伝わりづらいということがあると思う。他市との比較もしつつ、市独自の施策等も示しながら、市民意識調査を実施していきたいと思う。

委員長：市民意識調査の中に施策の実績、進捗を載せることは良いと思う。日常的な広報の中でも市民に伝えられるように、そのあり方を含めて検討してほしい。

委員：行政の負担を軽減することも目的にあると思う。そのためには、新たなアンケートの実施や新たに仕事を増やすだけでなく、既存のもので利用できるものを指標に取り入れることも必要ではないか。

事務局：既存のアンケートや、現状把握している声を今後の施策展開の際には参考としていきたい。

●審議②第3次北杜市総合計画進捗状況について

事務局：第3次北杜市総合計画進捗状況について説明。

委員：成果指標の令和7年度目標値は、設定の仕方に何か決まりがあるのか。

事務局：コロナ禍前の平均値やコロナ禍の状況から現状維持、下降をする予測の場合は現状維持、上昇する予測の場合はさらに上昇といったような考えに基づき設定しており、総合計画の冊子の中でも「目標水準設定の考え方」として整理をしている。

委員：第3次北杜市総合計画を推進し目標を達成することで結果として実現できる姿を、計画に記載しているか。

事務局：「2030年、地域のありたい姿」として、5つのありたい姿を示している。そこを目指すために指標を設定し進捗を管理していく。

委員：総合計画で目指している目標と、その目標に向かって今自分たちがどの位置にいるのかを、よりわかりやすく市民に伝えるために、視覚的に、立体的に見える化できると良いのではないか。

事務局：今後、目指すべき姿及びその進捗状況を市民にわかりやすく伝えるために改めて検討を行い工夫していきたい。

委員：数値目標だけを追うのは、それ以外のことをやらなくなるなどの危険性もあると思う。そこは職員も認識をして気を付けてほしい。

令和4～6年のそれぞれの年の目標値も設定して、毎年進捗管理を行った方がよいのではないか。

既に目標値を達成している指標についてはさらに上の第2の目標を設定し、高いところ目指してもよいのではないか。

事務局：成果がでるようなPDCAの回し方、評価の方法等を検討していきたい。

委員長：最終年度に向けて年度ごとの目標数値は既に定めてあるのか。それとも前年度の状況を見ながら毎年度設定するのか。

事務局：リーディングプロジェクトについては最終年度の目標値しか定めていないが、部門別計画については各年度の目標値を定めており記載している。

委員長：次回以降、進捗管理の資料の中でも年度ごとの目標値を記載し、達成状況や達成

できなかった理由の分析などの見える化をしてもらいたい。

委員：リーディングプロジェクトに目標値が入っていないと、個々の事業の評価をした際に事業単体の目標は達成したけれども、リーディングプロジェクトの目標達成ができていないのかがわからず、評価の判断に迷ってしまうのではないかと。個々の事業とリーディングプロジェクトそれぞれの評価が連動してこないと思うが、おそらく現状はその整理ができていないと思う。大前提として、職員がそれぞれで自己評価を行うものだと思うので、職員の負担を減らせるような仕事のしやすい目標値、指標設定を検討しながら改善していく必要があると思う。

事務局：今年度から初めての総合計画の進捗管理であるため、PDCAの回し方、総合計画と個々の事業の関連性、評価方法など改めて整理して検討したい。

委員：既に目標値を達成しているような項目は北杜市の強みとなる部分であり、注目すべきではないか。それを市内外に伝えていくことで、今は達成できていないような項目に連動し引っ張り上げることができると思う。この項目が他のどの項目に連動しているのかがわかるように見える化することで、それぞれが単体で動いているものではなく、連動して全体をよくしているということが伝わりやすいのではないかと。

事務局：市民と一緒に目標を見据えて進んでいけるように、今は単独の項目での記載となっているが、北杜市の強みや、他の項目との相関関係などを含め見やすさ、伝わりやすさを検討していきたい。

委員長：既に目標値を超えていて、この先も目標値は横ばいとしている指標もある中で、目標値の見直しについてタイミングや条件などがあれば教えてほしい。

事務局：PDCAを回す中で各部局の評価を勘案しながら、新たに高い目標に向かい指標を設定すべきものであれば、総合計画で設定した指標との兼ね合いも含め検討していきたい。

委員長：目標値の見直しを行う際に、計画の改定という形をとるのかそれとも進捗管理の上での数値の設定とするのか。

事務局：進捗管理の上での数値設定とし、各担当部局を含めて進捗管理していきたい。

委員：高い目標設定が望ましいと思うが、場合によっては現実的に達成不可能だと判断して、目標を下げることも必要だと思う。

目標達成できていないものについて、人や予算を追加するなどして力を入れて

もよいのではないか。

委員長：達成すべき目標に対し達成できていない場合に、その理由を考え、時には資金を投入することも必要ではないか。高い目標設定に抵抗もあると思うが、達成できていない理由を考えることが、伸ばしていくポイントになると思うので、高い目標設定も必要だと思う。

委員：指標における目標値の設定の考え方、算出根拠などをしっかりと把握しておく必要があると思う。また、職員一人一人がそれを踏まえて業務に取り組めるように、説明することも大切だと思う。

事務局：職員一人一人が理解したうえで事業を進められるよう、十分に周知を図りたい。

委員：コロナ禍において総合計画を策定したが、5類への移行などに伴い、前提条件が変わったものへの対応をどうするのか。

事務局：指標設定、目標設定をする際に、コロナ禍とコロナ前の両方の状況を加味しているため、影響はないと考えている。

委員：国においてまだ決まっていないことも多く、市においても予算や人員配置などに影響すると思われるので、流動的に対応できるように注視してもらいたい。

委員長：コロナ禍において国から創生臨時交付金が出ていて、これを利用して事業の推進を図っていたと思うが、この交付金は徐々に縮小していくことは自明である。今後どのような事業展開の見通しか。

企画部長：市の財源も様々あり、国の補助金や交付金などを十分に活用しながら目標達成に向けて施策に取り組んでいく。

委員長：コロナ禍において財源を含め様々な支援策の拡充などもあった中で、それが通常に戻った際にサービスの低下と取られることもあるかもしれない。今までの特例的なものであり、通常に戻った中でも頑張っているところを示しながら努めてほしい。

市長：より高みを目指していきたいと思っているので、既に目標を達成しているような事業については新たな目標の設定を検討していく。

委員長：新たな目標の設定について応援していく。

委員：たとえば、ふるさと納税に関わる事業者数など、現状目標として設定はしていないものでも指標としてモニタリングしていく必要があるのではないか。

企画部長：担当も力を入れているものについて、指標があれば目標にもなると思うので検討していきたい。

委員：目標値が累積値になっているものについては、その年度単年の実績値と累積値の両方を記載したり、達成率を記載するなどした方がよいと思う。目標が累積値のところに、単年度の実績値が書いてあっても現状が伝わりづらいと思う。

委員長：策定から1年ほど経つが総合計画について市民にどのような周知を行ったのか。

事務局：総合計画及び重要な計画の策定については、昨年市民に説明する機会を設けようとしたが、コロナ禍の影響で延期となっていた。令和5年2月1日から市民への説明会「市長と語る会」を開催する予定。

委員長：今後の説明の機会には市民に進捗状況を説明し、親しまれる総合計画にしてほしい。

どの事業が総合計画のどの指標に影響があるかはっきりとはわからないため、効果がありそうな事業を様々実施しているとのことだが、総合計画を推進する上で日常的に意識しながら事業を実施するために、そういった視点を促すような進捗管理や事業評価との連動を構築してほしい。

事務局：所管課において各事業のPDCAを回すにあたって、総合計画で掲げるありたい姿の実現に向けて連動した評価というものを、その方法を含め検討していきたい。

委員長：業務負担との兼ね合いの中で無理のない範囲でできるものから試行してもらいたい。

委員：総合計画の進捗状況や目指しているもの、そのための取組や課題など、見える化することで市民と職員お互いにとって確認になると思う。

委員：教育現場でも、一年間の取組や成果を保護者や生徒に伝えてもなかなか伝わらず、説明して理解してもらうことは非常に難しいと感じている。規模の大きくなる市であればなおさらだと思う。総合計画について現状でも周知を行っているが、市民意識調査の回答で「わからない」が多い項目があることから、まだ不十分なのではという印象。新しいアイデアを出すなど、伝える努力を続けてもらいたい。

事務局：一方的に伝えるのではなく、市民目線でわかりやすく伝えることが重要だと思うので、改めて検討していきたい。

委員：市民に伝えることは大事だと思うが、市外の方に市の取組を伝えることで移住に繋がるのではと思う。

委員長：総合計画に指標を設定し推進を図ることは初めての試みであり、委員からいろいろな意見をもらう中で見えてきたところがある。

この総合計画は今までの総合計画と違い、変化する計画として推進していったほしい。指標の再設定、サブ的指標の設定は進捗管理の中で行い、課題が見えた際にはサブ的指標等を大胆に用いて、変化を恐れない計画、むしろ変化することがこの総合計画の持ち分だというところで成長させてほしい。

総合計画の進捗状況等について、推進委員会も併せて市民あるいは市外に向けての見せ方の工夫が必要である。総合計画を全て理解してもらうことは難しいが、個別のプロジェクトにクローズアップして、こういう目的に向かってこういう事業を行っている、という見せ方もある。また、進捗状況について、どんな目標に向かって、どんなプロセスで行い、今どのあたりにいるのかが見える見せ方も重要である。

幹部職員には、この会議における提案を、なるべく職員の負担にならないような形で推進していただいたい。

新たな調査などだけでなく、既に行っている調査、アンケートの結果や、日常業務で収集している情報などを活用して進捗管理に役立てながら、なるべく職員の負担がかからないような方法で推進を図ってほしい。

●審議③その他

特になし